

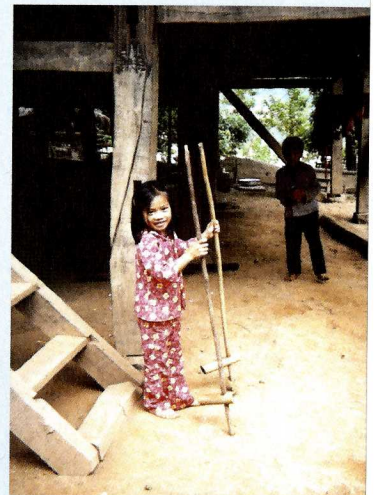
世界のおくりもの こどもとおとなをつなぐもの

会期：2006年10月12日(木)～
2007年3月21日(水・祝)
場所：常設展示場内

みんぱくには、日本や世界のさまざまな地域における子どもと大人とのつながりを感じさせてくれる資料がたくさんあります。今回の企画展では、「子どもを護る」、「子どもの成長を願う日本人の想い」、「信仰・いのり」、「装い」、「学びと遊び」、「思いを託す」、「大人への入り口」といったテーマに合わせたエピソードとともにそれらの資料のいくつかをご紹介します。また、2006年の3～5月に開催された特別展「みんぱくキッズワールド」に訪れた子どもたちのいきいきとした様子を併設の写真展でご紹介します。



お七夜用壺・エジプト



竹馬で遊ぶ少女・ベトナム
(撮影/櫻永真佐夫)

編集後記

今回は『月刊みんぱく』が30巻を終えたことを記念して、その特集号を組むことになった。巻頭では、初代編集長の石毛先生、最長期間編集長をつとめた野村先生、そして現在編集長として奮闘中の池谷先生による座談会となった。誌面にはあらわれなかった過去の苦労話や企てが興味深く語られている。それにつづき、歴代の編集長が在任当時の思い出を、短いそれぞれ印象深いエッセイでとりまとめてくれた。わたしは開館4年目に民博に着任し、すでに古参のひとりになってしまったが、これらをよむと、いつもかわらぬ民博の顔として鎮座してきた『月刊みんぱく』も折々変化してきたことが思い出される。また今号の表紙には、全号の『月刊みんぱく』の表紙を掲載した。そこからは民博の約30年の凝縮された歴史も走馬灯のようによみがえってくる。

ところで「まぐわう」をテーマにとりあげた前号の特集にいくつか意見がよせられている。学術的立場とはいえ、『月刊みんぱく』で、性の問題に踏み込んだことに対してであるが、編集部としては当然慎重な議論を重ねた結果であった。いずれにせよ、今後の『月刊みんぱく』の方向性を考える上では重要な契機となった。読者のご意見をおまちします。(庄司博史)

月刊 **次号予告/1月号特集**
イノシシとブタ

2006年12月号 第30巻第12号通巻第351号
2006年12月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 **国立民族学博物館**
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 朝倉敬夫

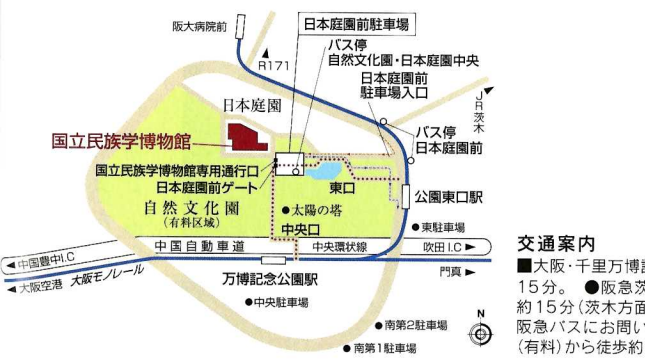
編集委員 池谷和信(編集長) 櫻永真佐夫
川口幸也 庄司博史 山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂
有限会社ブックポケット

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社
株式会社NPCコーポレーション

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます



交通案内

■大阪・千里万博記念公園内 ●大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。
●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
●自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。